

乳幼児期の教育・保育は 生きる力の根（子どもが豊かで幸せに生きるための力） を育てています

乳幼児期の子どもは、遊びを通して、人との心のつながりや体の感覚など、豊かで幸せに生きるための力をつけていきます。
子どもが、心身ともに健やかに成長できるよう、社会全体で子どもを支え育てていきましょう。

人との絆が芽生える 乳児の頃

大人との安心できる環境の中で、物に触れ、音、形、色、手触りなどに気付き感覚を豊かにしていきます。



大人は、愛情豊かに触れ合い、安心できる雰囲気をつくりましょう。

思いが生まれる 1、2歳児の頃

自分の思いを表すようになり、大人とのやりとりの中で人との関わりを身に付けていきます。



大人は、子どもの思いを丁寧に汲み取り、温かく見守りましょう。

自分でやりたい 3歳児の頃

「やってみたい!」「やったらできた!」を繰り返し、興味や関心が育っていきます。



大人は、子どもの興味や関心を引き出す環境を作り、一緒に楽しんで思いに共感しましょう。

思いを伝え合う 4歳児の頃

自分の思いを言葉で伝えたり、友達の気持ちに気付いたりしていきます。



大人は、子どもが自分や相手の思いに気付くように、言葉にして子どもに返してあげましょう。

仲間とつながる 5歳児の頃

友達と思いを伝え合い、協同し試行錯誤しながら、達成感や充実感を味わっていきます。



大人は、相手のよさや一緒に活動することの大切さに気付くような言葉かけや姿勢を示しましょう。

小学校入学以降

小学校では、教科等を通じた体系的・系統的な学びが始まります。乳幼児期の遊びを通して身に付けた力を生かして、学びの実感を積み重ねていきます。

大人は、「もっとやってみたい」「なぜだろう」など、学習の過程で子どもの手応えを認め、支えていきましょう。

他者意識・協同性の芽生え

言葉・自我の芽生え

信頼関係・愛着の形成

遊びを通して育まれる力を見よう



遊びを通して 育まれる力

子どもは遊びを通してどんな力を育んでいるの？

子どもは夢中になって遊ぶ中で、人やものとの関わりや言葉を豊かにしたり、自然の美しさや不思議に気付いたりしていきます。

- 楽しむ
- 感じる
- 表現する
- 工夫する
- 人と関わる
- 気付く
- 見つける
- 考える
- 比べる
- 試す
- 伝え合う



乳幼児期に遊びを通して育った力は、小学校にどのようにつながっていくの？

乳幼児期に体験を通して育まれた感覚や思考力、協同性等は、小学校以降の学習の土台となります。

- 課題を見つめる
- 筋道を立て考える
- 人と共に考える
- 粘り強く取り組む



乳幼児期から高校まで、育みたい力（資質・能力）は一貫しています。育みたい力が育っている姿を、5歳児後半の具体的な姿で示したものに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」があります。

育みたい力(資質・能力)をもっと詳しく→



大人は 子どもの 伴走者

子どもの力を育てるために大人ができる事ってどんなこと？

大人は、子どもの伴走者として、子どもを理解し、子どもの気持ちに寄り添い、共感することが大切です。子どもは、信頼できる大人に見守られ、安心して過ごす中で、力をぐんぐん伸ばしていきます。



「乳幼児期の子ども育ちと大人の関わり」をもっと詳しく→



県民向け
乳幼児期の教育・保育
理解促進リーフレット

子どもの 生きる力の根を育てよう



静岡県教育委員会・静岡県就学前教育推進協議会

リーフレットの活用について

